
帰国渡日児童生徒つながる会

第1章 プロジェクトの概要など

1. プロジェクトの名称、目的など

- ・名称「帰国渡日児童生徒つながる会」
- ・目的

現在京都府内の学校には、国際結婚の家庭に生まれた子どもや、在日外国人、帰国児童生徒などさまざまな形で「外国につながる児童生徒」たちが点在している。そのような子どもたちは、言葉や文化が違うということから、他の日本人の子どもたちとのコミュニケーションが上手くいかず、クラスで孤立してしまうことも多いようである。また、彼らの学校に「外国につながる児童生徒」が少ないことも多い。そのため、悩みを相談できる人がおらず、一人で抱え込んでしまうこともある。つながる会は、同じ境遇にある子どもたち同士が出会い、共に活動する場を提供している。そして、その場を通じて彼らが同じようなことに悩んでいる人がいるのだと知り、そんな悩みを分かち合える友達を得ること、また一人一人が持つ個性を尊重し、自分自身や自分のルーツに自信を持ち、彼ら自身はその国の言語や文化を大切にできるようになることを目的として 2008 年度より e-project を利用し活動を続けている。

2. 代表者および構成員

・代表者

尾嶋美菜子 教育学専攻 2回生

・構成員

口石 梨絵 国語教育専修 大学院 1回生

喜屋武 剛 国語領域専攻 4回生

嵯峨根早紀 教育学専攻 4回生

杉山 貴俊 教育学専攻 4回生

郭 焜 教育学専攻 4回生

細見真莉子 教育学専攻 2回生

上田美紗瑛 幼児教育専攻 2回生

妹尾花菜子 教育学専攻 1回生

3. 助言教員

浜田 麻里先生 (国文学科)

第2章 内容や実施経過など

1. 実施経過

4 月 新入生勧誘

5 月 夏の活動を企画

6 月 夏の活動の施設(大学)予約
夏の活動内容検討

7 月 夏の活動内容決定
夏の活動準備

8 月 夏の勉強会を実施
夏の活動、台風のため中止

10 月 外国につながる子どもたちと拓く
～わたしの未来、地域の未来～に参加

11 月 ヒューマンフェスタに参加
冬の活動内容検討、決定

12 月 冬の活動準備
冬の活動実施

2. 実施内容

(1) たけのこ会

日時：月に一回、主に土曜日

14時から17時まで

場所：京都市地域多文化交流

ネットワークサロン

内容

フィリピン人団体「パグアサ」と連携し、主にフィリピンにルーツを持つ小中学生・高校生の学習支援を行う。14時から16時半までは、それぞれの子どもたちが持ってきた課題(学校の宿題、教科書、問題集等)をすすめる。その間随時学生がフォローに入り個別に指導を行う。

小学生は、集中力がもたない子が多いので、途中で絵を描いたり休憩時間に公園で一緒に遊んだりして再び勉強へのモチベーションを高めた。また、学校で習うわらべ歌を知らずに授業についていけないという子には、わらべ歌を歌って聞かせてあげたり、歌詞の意味を説明したり、一緒に歌ったりした。

中学生は社会科でつまずく子が多く、教科書の語句をひとつひとつ一緒に調べ、説明しながら教科書を読み進めていくという方法をとった。他には、たけのこ会では学校の宿題や定期テスト対策をする子が多かった。

日本語がほとんどできない子どもたちに対しては、英語や、日本語の単語でコミュニケーションをとりつつ簡単な日本語で書かれた絵本と一緒に読むという方法で日本語の学習をすすめた。

(2) 夏の活動(台風で中止のため実施計画のみ)

日時: 2014年8月9日

午前9時30分~午後4時

場所: 京都教育大学

内容

9時15分 参加者JR藤森駅か京阪墨染駅に集合

9時30分 勉強会開始

10時45分 10分間休憩

10時55分 勉強会再開

12時00分 昼食

12時45分 勉強会再開

14時00分 勉強会終了

14時10分~14時30分 ドッジビー

14時35分~14時45分 人間知恵の輪

14時50分~15時10分 フルーツバスケット

15時15分~15時30分 震源地

15時35分~16時00分 ふり返り・まとめ

(3) 外国につながる子どもたちと拓く
~わたしの未来、地域の未来~

日時: 2014年10月12日(日)

場所: キャンパスプラザ京都

内容

I 基調報告

「移動する子どもたちと教育2009-2014」内

田晴子

II パネルトーク

・京都市 日本語教員

・京都市 母語支援員

・多文化強制センター大阪

・京都市地域・多文化交流ネットワークサロン(希望の家) 所長

・たけのこ会

・京都大学ボランティア学生

・パグアサのカリサさんの話

III フロアとの意見交換

たけのこ会の発表

たけのこ会はコーディネーターである内田晴子氏の呼びかけに応じて、今回のフォーラムに登壇した。たけのこ会設立の経緯や活動内容を報告し、フィリピンの子どもたちを学生として支援する立場で話をした。子どもたちの頑張っている姿を見て欲しいと思い、写真やエピソードを交えて発表をした。先生としてまた友だちとして子どもたちと接する中で触れた、子どもたちが抱える悩みや葛藤、また子どもたちに勉強を教えることの大変さを中心とした話となった。

(4) 京都ヒューマンフェスタ2014

(以下ヒューマンフェスタ)

日時: 2014年11月3日(月祝)

場所: 京都テルサ

内容

ヒューマンフェスタは京都府が主催する人権啓発イベントであり、様々なNPOによる講演や展示が行われる。そこに、日本に在住する外国にルーツを持つ子どもたちを支援する団体として、つながる会が参加

を要請された。ブースを設営し、そこで子どもたちの現状やつながる会の活動を紹介した。他の NPO 法人のブースを出している方や、一般の参加者など多くの方がつながる会のブースに足を運んでくださり、展示を見ていただいたり、私たちの説明を聞いていただいたりした感想を付箋に書いてくださった。

(5) 冬の活動

日時：2014年12月27日(土)

場所：京都教育大学 A1. A3教室

参加人数：子ども 23人

スタッフ 7人

タイムスケジュール

9:15 JR藤森駅、墨染駅に集合

9:30~10:40 勉強会1時間目

11:00~12:00 勉強会2時間目

12:00~12:45 昼食

12:45~14:00 勉強会3時間目

14:00 ケーキ作り

15:30 片づけ

16:00 解散

<勉強会>

子どもは冬休みということもあり、学校の宿題を中心に子どもたちが自分で学習を進め、分からないところをスタッフが教えるという方法で行った。社会は語句を覚えるのが難しいようだった。また、国語は特に文章題を解くのに苦労している様子が見られた。お互いに得意な教科を教えあう子どもたちもいた。

<ケーキ作り>

黒板に描いた絵も活用しながら作り方を説明し、各班にスタッフが補助で入ってケーキ作りを行った。ケーキ作りは用意しておいたスポンジに、自分たちで生クリームをぬり、缶詰フルーツなどでデコレーションするという形をとった。何をトッピングするかなどをお互いに相談しながらケーキのデコレーションをしていた。



(6) つながる会ミーティング

日時：毎週火曜日 12時15分から

場所：G1 講義室

春・夏・冬の活動や月に一度のたけのこ会に向けてミーティングを行っている。そこで次の活動に必要なものを考えたり、役割分担などを決めたりして活動の準備をしている。また、つながる会の活動をより多くの外国につながる子どもたちに知ってもらうため、活動日の1・2ヶ月前にはチラシと申込用紙を作成し、京都府内の中学校に郵送している。

第3章 結果や成果など

(1) たけのこ会

小学生は、中高生とちがい学生が常に隣にいて一緒に問題を解いてあげることで安心感を覚えるように感じられた。何度も隣で一緒に勉強すると、学校のことや家のことをよく話してくれるようになった。

また、小中学生・高校生すべてにいえることであるが、つながる会を通して同年代の子ども同士が仲良くなっている。小学生は一緒に公園で遊び、中高生は連絡先を教えあってつながる会の外で会って遊んだりしているようだ。たけのこ会が学習支援だけでなく、同じ境遇にある子どもたちの交流の場という役割を果たすようになってきたといえる。

(2) 外国につながる子どもたちと拓く

～わたしの未来、地域の未来～

来場された方はフィリピンの支援をされている方や、外国にルーツを持つ子どもたちを支援している団体等であり、話しながら話を聞いて下さった。このような発表を通じて、たけのこ会を知ってもらい、たけのこ会を居場所にできる子どもが増えたらいいと思った。

(3) ヒューマンフェスタ

他のブースを出しておられる NPO 法人の方や一般の参加者など、様々な方がブースを訪ねてくださった。付箋にも、つながる会の活動について肯定的な意見を書いてくださる方や、帰国渡日児童に関する問題に興味を持ったと書いてくださる方が多かった。多くの方々から帰国渡日児童について、またその実態や問題解決への活動を知ってもらおうという当初の目的に沿って活動することができた。

(4) 冬の活動

<勉強会>

言語面での困難が学習を進める中で、大きな問題となっていることが改めて分かった。

国語や社会はもちろん、他の教科においても分からない箇所があるときに、解説を読んでも理解できないという場面が何度も見られた。生活言語（日常生活を送るための言語）は理解できても学習言語（教科学習に必要な言語）は理解できない子どもたちも多く、学習言語の日常的なサポートも重要だと言えるだろう。
<ケーキ作り>

子どもたちはそれぞれ役割分担をしてオリジナルのケーキを作っていた。初対面の子ども同士は初めは緊張した様子だったが、活動をする中で徐々に仲良くなっていく姿が見られた。中には見た目を重視して甘くなりすぎた班もあったが、できあがったケーキをみんなおいしそうに食べていた。

(5) つながる会ミーティング

ミーティングであらかじめ、役割を分けることにより、自分のやるべきことにそれぞれが専念でき、一人一人の負担も減らすことができた。また、メンバーが集まって話し合うことにより、一人で考えても気づかなかった発見やアイデアが出され、問題解決へと進むこともできた。

第4章 まとめと反省、今後の展望など

(1) たけのこ会

中学生の最大の課題は、高校受験である。中学生ともっと深く関わり、進路や学習面で気軽に学生に相談してもらえるようにしたい。また、たけのこ会に参加する子ども同士で進路の話ができるような信頼関係を築くことができるよう、子どもたち一人ひとりをしっかり見て関わり、フォローしていきたい。

日本語があまり話せない子どもに対しては、簡単な日本語のテキストを購入して使い、たけのこ会で少しでも深く日本語を習得してもらえるようにしたい。

(2) 外国につながる子どもたちと拓く
～わたしの未来、地域の未来～

全体の報告を聞いて、フィリピンの支援のために様々な団体が違うアプローチをしており、連携の必要性を感じた。今後はフィリピン支援の全体像や子どもを取り巻く環境に留意しつつ活動をしていきたい。

(3) ヒューマンフェスタ

今回のヒューマンフェスタは、準備不足であったといえる。来年ももし参加させていただけなのであれば、来場者につながる会の活動を印象付けるようなフライヤーを作成して配布したい。また、今回のヒューマンフェスタにおいて連絡先を訊かれることが多かったため、あらかじめつながる会の連絡先を書いた紙（名刺等）を用意するか、フライヤーに連絡先を明記しておきたい。そして、今悩みを抱えている外国につながる子どもたちの一人でも多くにつながる会の活動を知ってもらえるようにしたい。

(4) 冬の活動

<勉強会>

テストや成績のための学習ではなく、将来のための学習にするために動機づけをともに行うことで、子どもたちが前向きに取り組んでくれるのではないだろうか。これからの活動においても、子どもたちの意欲を高めていきたい。

<ケーキ作り>

楽しくケーキ作りができた班と打ち解けるのに時間がかかった班とがあったので、班のメンバー決めの方法や子どもたちの対応についてももう少し考えて行くべきだったと思う。

(5) つながる会ミーティング

参加者から意見が上がらず、ミーティングが進まないときがあった。司会進行役がいない状態でのミーティングは効率が悪くなるの

で、司会進行役の決定と適格な人を指名して聞いてみるなどの先に進めるように仕向ける改善をしていきたい。また、ミーティングの後の議事録の配布が遅れ、参加者全員が決議事項の確認することができず、情報の共有が遅れることでミーティングの効率も悪くなることもあるので、決議事項の共有は今後気をつけたい点である。

<全体の反省>

全体の反省点としては、二つ挙げられる。一つ目は、スタッフの拡充に十分な手間と時間をかけられなかったことである。新歓の時期のビラ配りは行ったものの、その後1回生のオリエンテーションに参加させていただきつながる会の活動を紹介するなど、もっと積極的に動くことができたのではないかと考えられる。スタッフの数が増えれば、たけのこ会やつながる会の勉強会の際に教科を分担して教えたり、集中がすぐに切れてしまいがちな小学生の参加者の対応をもっと細やかに行ったりすることができる。また、つながる会の夏や冬の活動をもっと大掛かりに行うこともできる。

また、つながる会の参加者への電話連絡等があまりにも直前になりすぎてしまったことである。参加者の名簿を受け取る日を予め決めておき、誰がどの参加者に電話連絡を行うかを割り振り、活動の3日前には連絡が行えるようにしたい。

<今後の展望>

今まで通り、パグアサと連携して月に一度開かれるたけのこ会で日本語や勉強を教えたい。また、私達と同じような支援をしている人々と交流する機会があれば、意見交流で得たその活動のよい所などをつながる会の活動にも取り入れていければと思う。

つながる会が行う春と夏と冬の活動では、参加してくれる児童生徒たちが様々なルートを持つ児童生徒と知り合い、交流し、友達になれるよう、一つ一つの活動内容を考えていきたい。様々なルートを持つ児童生徒同士でより活発な交流が行える場所を作り上げていくためにも、今後もつながる会のスタッフの募集に力を入れていきたい。